

希望

チューリツヒ日本人学校便り

平成 27 年 6 月 22 日発行

第 13 号

発行人 校長 鈴木史良

武士道の精神に触れる

—— 礼のすばらしさを教えてくれた隣国からのお客様 ——

6月19日(金)に本年度第1回の講話会を実施いたしました。今回はリヒテンシュタイン在住の瀬尾様及び青砥日本人会会長様のお力添えにより、瀬尾様と国際武道館連盟の世界チャンピオンであるカヤル氏、それに門下生の皆様総勢16名が来校し、日本人学校の子どもたちの前で武道についてのお話と模範演技を披露していただきました。柔術、剣術、空手など、日本の伝統武術を深く研究し、日本へ何度も修行に行き、技を磨いてきたカヤル氏は範士の腕前をもっているそうです。

講話会は午後、中学部女子2名による勇ましい和太鼓演奏でスタート。大人の門下生

に交じって、10歳～12歳の少年たちも演技し、日頃から鍛えた技を使って元気いっぱい躍動しました。まだあどけなさが残る顔つきの少年たちでしたが、礼をして演技に入ったときの集中力あふれる表情はすばらしいものでした。門下生たちによる棒を使った演技、十手を使った演技、ヌンチャクを使った演技等は、観覧する子どもたちが思わずのけぞるほどの迫力がありました。更に防具をつけた組手が始めると、カヤル氏の群を抜くスピードと迫力に圧倒され、会場は驚きとため息の渦。さすが世界チャンピオンの技でした。

武道の演技が終わると、今度は日本人学校の子どもたちの出番です。お礼として和太鼓演奏を披露しました。迫力あふれる武道の演技に刺激されたためか、今回の子どもたちの和太鼓演奏は、たいへん気合が入っていました。腹の底まで響いた和太鼓に、遠来のお客様も喜んでくれました。

おもてなしは、日本の伝統的なスイーツ、みたらしだんごです。朝、3,4年生がつくってくれた手づくりの味を味わっていただきました。

武道は“礼に始まり礼に終わる”と言われます。今回の武道の披露を通して、子どもたちの心に残ったことは、相手を尊重し、相手に敬意を払う礼儀正しい振る舞いだったのではないのでしょうか。改めて日本文化のすばらしさを教えられました。



礼に始まる武道



むだのない動きと身のこなし



気合が入った和太鼓演奏

詩の読み聞かせ・・・心洗われるひととき

6月16日(火)朝、本校保護者であるA夫妻による詩の読み聞かせが行われました。今回選んでくださった詩は、谷川俊太郎の「朝のリレー」と「生きる」でした。「朝のリレー」は昔、中学校の教科書に掲載されていた作品で、学んだ詩が大人になっても心の中で生きていくというのはすばらしいと思いました。「生きる」という詩は以下に紹介いたします。何回も読み、味わいたい詩です。子どもたちの心に残る詩を朗読していただき、感謝いたします。



読み聞かせに聞き入る子どもたち

詩を楽しむ

生きる

谷川 俊太郎

生きてくるよ
いま生きてくるよ
それはのどがかわくよ
木漏れ日がまぶしくよ
ふっと或るメロディを思ふよ
くしゃみするよ

あなたと手をひなよ

生きてくるよ
いま生きてくるよ



それはミニスカート
それはプラネタリウム
それはヨハン・シュトラウス
それはピカソ

それはアルプス
すべての美しいものに
そして

かくされた悪を注意深く

生きてくるよ

いま生きてくるよ

泣けるよ

笑えるよ

怒れるよ

自由だよ

生きてくるよ

いま生きてくるよ

いま遠くで犬が吠えるよ

いま地球が廻っているよ

いまどこかで産声があがるよ

いまどこかで兵士が傷つくよ

いまぶらさがぬねつ

いままがすきつ

生きてくるよ

いま生きてくるよ

鳥ははたよ

海はとろよ

かたしむりはひよ

人は愛するよ

あなたの手のぬくみ

いのちよ